

こちょうらん 胡蝶蘭の育て方

1、胡蝶蘭（ファレノプシス／*Phalaenopsis*）

東南アジア各地に広く分布し、日中は木漏れ日が差し込み、朝夕には霧がたちこめるような、河川や海岸に近い場所の、大きな樹木に付着して生活しています。

2、育て方

①温度

18℃から30℃位。冬の間は夜温を15℃以上に保ってください。

②湿度

室内の湿度を無理に上げる必要はありません。そよ風を好みます。ただし、温風機や冷房機のそばは乾きやすいので注意してください。

③日光

高温で直射日光を当て続けると、「葉焼け」を起こします。明るい場所におき、直射日光が差すようであればレースのカーテンをひいてください。（遮光率50～70％）

④水やり

花のある時は、ミズゴケの表面が乾いたら。ただし水を切らすと花が早くしぼんだり、つぼみが落ちたりします。花のない時は、ミズゴケの表面が完全に乾いてから。いずれもたっぷりと水をやり、間隔をしっかりとるようにします。水が多すぎると、「根腐れ」をおこします。また、与える水は事前に汲んでおき、室温と同じくらいの水温にすると良いでしょう。受け皿には水を溜めないように注意して下さい。

⑤花が終わったら

花茎の節を残して切ることで2番花が咲くこともありますが、花芽をつけ根から残さずに切り取って株を養生させることをおすすめします。

⑥植替え

化粧鉢の場合は、花芽を切って1ヶ月間は水を控えめにしながら管理し、新しい根が顔を出したら、一株ごとに4～4.5号の素焼き鉢に、ミズゴケで硬めにしっかりと植えてください。

素焼き鉢の場合は花が終わる株が成長期に入る5月頃が最適です。ミズゴケは傷むので、2年に1度は植え替をしましょう。（鉢の大きさはなるべく小さいものを選び、大きくとも5号位までがよい）

下葉が次々と黄色くなって落ちる時は、「根腐れ」の可能性があります。その時は傷んだ根を切り取り、少し小さめの素焼き鉢に植替え、水を控えめにして新しい根が出るようにしてください。

いずれも植替え後、1週間は水やりを控えます。

⑦肥料

規定の倍率に薄めた液肥を春から夏の生長期に与えます。濃い液肥は「根腐れ」を起こします。また植替え後1ヶ月間は根が傷んでいるので肥料は控えます。花が咲いている時期は必要ありません。市販のハイポネックス原液を2,000倍（2リットルのペットボトルに1cc）にして、水やりの代わりに与えて下さい。

⑧株が元気なのに花芽が出ない時

コチョウランは通常、秋になって気温が下がるとそれに反応して花芽が出て、冬に開花します。株が元気なのに花芽がでない時は、夜温が16～18℃になる場所に株を移して様子を見てください。南向きの窓側から北向きもしくは東向きの窓側に。5℃程度温度差をつけて、コチョウランに刺激を与えるのが理想です。

⑨花芽が出たら

顔を出した花芽が新葉よりも上に出たら、針金などを支柱にして誘引してください。この時洗濯バサミを使う（穴に花芽を通し、先端で支柱をかませる）と便利です。支柱はまっすぐに立て、花芽が光に反応してカーブしてきたら、一番下のつぼみから10cm位のところに洗濯バサミをつけて支点とすると、花がきれいなカーブを描きます。また花芽が鉢から大きく外れて伸びてしまったときはビニールタイを使って少しずつ支柱に誘引してあげましょう。開花時にエチレングス（老化ホルモン）を発生させるポータブルストーブ、自動車等の排気ガス、果物類、植物残渣、お線香等の近くに置くと、花が落ちたり開花期間が短くなります。

赤平オーキッド株式会社